

第9回国際熱分析会議 (9th ICTA) 報告

北大工: 古市隆三郎

9th ICTAは1988年8月21日から25日までイスラエルのエルサレム市で開催された。テルアビブの近くのロードにあるベングリオン国際空港から東へ約50km(車で40~50分)に位置する。さらに東へ30kmほど直進すると死海北端に入るヨルダン川に達する。エルサレムはダビデ王, ソロモン王の時代から激しい歴史を経て, 現在もユダヤ教, キリスト教, イスラム教の人々の聖地である。旧市街と新市街に区分され, 城壁に囲まれた旧市街には, 嘆きの壁やキリストが十字架を背に通った悲しみの道(VIA DOLOROSA)をはじめとして, 歴史的遺産が数多く残されている。新市街には1948年イスラエル建国後に創られた国会議事堂, ヘブライ大学などがある。8月のエルサレムは平均晴天日数31日, 最低-最高気温の平均値18.7~29.7°Cで, 強烈な太陽光の下で, 岩の多いなだらかな丘の重なりと石造の白黄色の建物の並びを見ると, 日本の風土との相違の大きさにある種の感慨をおぼえる。

会議はエルサレム市北東の丘に最近できたHyatt Regency ホテルで開催された。組織委員会はHebrew Univ. M. Steinberg教授をchairmanとし, Open Univ. S. Shoval教授, Ben-Gurion Univ. I. Pelly教授を中心に合計17人のイスラエルの熱分析グループと化学会の方々により構成され, 会議は極めて整然と運営された。8月21日は参加登録とwelcome reception, 22日は開会式後, R. C. Mackenzie教授(UK)のEarly Thermometry and Differential Thermometryと題する冒頭講演に続いて, D. Dollimore教授(USA)のICTA Dupont Award受賞講演(The Effects of Temperature Dependent Factors upon the Mechanical and Surface Properties of Solids), さらにR. S. Porter教授(USA)の最初の特別講演(Polyesters: Phase Behaviour in Blends, Liquid Crystals and Composites)が行われた。その後, 5会場で口頭発表が1会場でポスター発表が8月25日迄続いた。この間, 上記の講演に加え受賞講演3件, 特別講演7件, さらに招待講演14件の発表が行われた。前回から設けられた, ICTA Young Scientist's AwardにはHebrew Univ.のMrs J. Schlichter-

Aronhime (Application of Thermal Analysis (DCS) in the Study of Polymorphic Transformations)に与えられたが, すがすがしい受賞式であった。また, 招待講演として我が国から, 小沢丈夫博士によるApplication of Thermal Analysis to Kinetic Study of Superconducting Oxide Formationおよび菅宏教授によるInterplay of Calorimetry and Thermal Analysisと題する2件の発表が多くの聴衆を集めて行われた。本会議における発表は14の分野に分れて行われたが, Emulsifiers SectionとHigh Temperature Superconductors Sectionが新しく加えられた後者についてはworkshop (Chemical and Physical Properties of Superconducting Materials Characterized by Thermal Analysis)も設けられたのが印象に残る。またOeology, Mineralogy and Clays Sectionで多くの発表があり, 我が国からも湊教授, 長沢教授が参加された。全般的に固体材料の合成, 評価, 反応, 調製に関する発表が多く, 生物科学, エネルギー, 燃料の分野のものが少なかった。会議における全発表件数は欠席者があったので口頭発表100件, ポスター発表150件程度, 参加者数は32ヶ国, 250人程度であったと思われる。我が国からは総計で17件の登録があった。なお, 本会議のproceedingsはThermochimica Acta, vol. 133~135に掲載されている。

会期中に開かれたICTA理事会において, 1988~1992年のPresidentにSlade St J Warne教授(Australia), Vice-Presidentに小沢丈夫博士が選ばれた。また, 10th ICTAは英国のHatfieldで1992年8月20日~22日に開催されることとなった。

今回の会議で筆者がお会いした我が国からの参加者(敬称省略)は, 国久和子(化学技術研究所), 湊秀男(東大名誉教授, 御夫妻参加), 長沢敬之助(静岡大, 御夫妻, 御令嬢参加), 小沢丈夫(ダイセル化学工業), 佐藤太一(Alcan International), 嶋田志郎(北大工), 菅宏(阪大理), 谷口雅男(東工大), 十時稔(東レリサーチセンター)の方々である。また, 全く同じ期間に量子化学の国際会議が開催されPost-Congress Tourでは福井謙一先生御夫妻にお目にかかる機会に恵まれた。